石、大野、粟崎は古代から金沢の海 **「」** の玄関口として重要な地域であった。 河北潟から日本海に注ぐ境界にあり、弥生 時代には拠点集落が展開し、古墳時代には 海岸部を勢力範囲に置く首長のための前方 後方墳や方墳が築かれ、古代には加賀郡の 公的施設である「津」等が置かれ、中世には 臨川寺領大野荘の湊として繁栄した。近世 以前の歴史からこの地域が天然の良港に恵 まれて日本海交流・物流経済の拠点として 重要な地域であったことは間違いない。

このような歴史的背景にあるこの地に加 賀藩が港を置いたことは歴史の必然と言え よう。城下町金沢の外港として整備された のは3代藩主利常の頃である。城下町と港 を直線道でつなぎ、大野川の川筋を北方に 付け替えたのである。以来、藩政時代を通 じてこの地域は北前船の寄港地として繁栄 したのであった。



🛾 書は金沢湊町(金石・大野・粟崎)に ある石造物の中から主に藩政期に由 来する75点を紹介したものである。石造物 の配列は金石エリア、大野エリア、粟崎エ リアの3地区に分け、西から配列して掲載 している。寺社の境内や墓地にある墓塔、 鳥居や燈籠・狛犬、路傍に残されている地 蔵などの石造物から金沢湊町の歴史と文化 を学習する一助になれば幸いである。

【金沢湊町(金石・大野・粟崎)への交通アクセス】

金沢湊町には、観光駐車場がありません。 金沢駅より、下記公共交通機関をご利用願います。 *個別に駐車場がある施設・店舗があります。

(金石・大野エリア) 金沢駅より北陸鉄道中橋停留所(JR高架下)へ (徒歩5分) 60番「金石」、61番「大野」で約20分 63番「大野港」で約30分

〈粟崎エリア〉 金沢港口(西口)北陸鉄道バス停70番「粟崎・内灘駅・ コマツ金沢工場」、71番「宇野気駅」で約20分

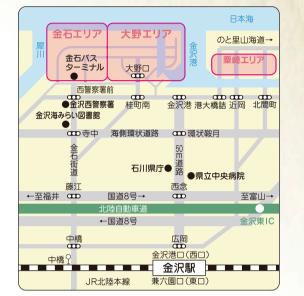
金沢駅より約15分

レンタサイクル「まちのり」で 金沢駅より約30分



日本遺産

寶泉翁の墓の一部



【金沢湊町案内マップ】

金沢文化財ボランティアうめばちの会

金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内 TEL 076-269-2451 FAX 076-269-2452



2019.9発行

【日本遺産に追加認定】令和元年5月20日

金沢市を含む7自治体が平成29年4月に文化庁から認定 を受けたストーリー「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ 異空間~北前船寄港地・船主集落~」に追加認定されま

(ストーリーの概要)日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風 景の一部に取り込む港町が転々とみられます。 そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大

な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。 また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京な ど遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が

唄われています。 これらの港町は、荒波を越え、動く商社として巨万の富 を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主 集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹 きつけてやみません。

野・粟崎エリアには27点(大野18点、粟崎9点)の石

墓塔類には大野エリアを代表する船主丸屋伝四郎⑮、伝 右衛門66、浅黄屋18、醤油商の直江屋149、若狭屋170の墓が ある。幕末の科学技術者 大野弁吉の墓②もある。また、

所在: 傳泉寺 種類:手水鉢 建立年: 文政7 (1824) 5材:花崗岩

高さ:58cm

本堂手前の左側にある手水 中村屋弁吉、通称大野弁吉と 鉢。丸屋伝右衛門と同伊右衛 言い、幕末の才人。京都出身、 門が寄進したもの。彼らは、 長崎で医学、化学などを学 大野日吉神社の狛犬・燈籠 ぶ。京都に帰り中村屋八右衛 などを寄進しており、大野を 門の長女うた(加賀国大野 代表する北前船船主達であ 村)の婿となり天保2年(1831) る。石材も瀬戸内地方から運 大野村に来て永住した。墓は んだものであろう。

新田開発に功績があった三津屋次助⑬の墓がある。粟崎エ リアでは「加賀藩最大の豪商」木谷家図の墓がある。

一 社の石造物は北前船に関わる海商や船頭たちが奉納 した物が多い。大野エリアでは大野日吉神社に丸屋 一族の手水鉢①、燈籠⑤、狛犬⑥、浅黄屋の燈籠⑨⑩、尾 道の商人・富吉屋の鳥居④⑪等がある。大野醤油の祖となる 直江屋、若狭屋も燈籠③を奉納している。粟崎エリアでは粟崎 八幡神社に木谷家やその船頭たちが鳥居②、燈籠⑤、玉垣②、 狛犬台座四を奉納している。

▲ 造物には大野エリアでは鎌倉時代の守護富樫泰家が 大野日吉神社に寄進したと伝わる山王猿⑧、粟崎エ リアには身代わり地蔵窓がある。

📥 材は、花崗岩が16点、安山岩(赤戸室)、凝灰岩(笏谷石) 各6点となり、花崗岩は瀬戸内地方から北前船で運 んだものである。石工には大野エリアでは尾道の嘉十郎の 作品④⑤⑨⑩と多く、粟崎エリアでは兵庫津の長八の作品 ②がある。

石エリアには48点の石造物を紹介するが、墓塔類 五人 石仏・地蔵尊が多く、次いで石碑、燈籠類となる。 墓塔には商人、芸能関係等多彩な人物が寺院に埋葬され

ている。商人には「海の百万石」と呼ばれる銭屋五兵衛とそ の一族⑦⑨⑩、豊臣秀吉の正室・北政所の叔父の家系の木 下家⑭等がある。芸能関係には墓塔と供養碑があり、相撲 力士®29393944と義太夫節2832、人形浄瑠璃3047、歌舞伎

所在:日吉神社

種類:燈籠

石材:花崗岩

画画 高さ:314cm

参拝:可

建立年: 天保 15

(1844)

役者図がある。これは湊町であることから他地方の藩士や 商人が行き交い、それらを相手とする興業が盛んに行われ たと考えられる。また、寶泉翁の墓⑪は塩・米蔵等を商う 蔵屋5代目のもので、狛犬を載せた珍しい形態をもつ。

─ 仏・地蔵尊は各町筋に地蔵堂があり、現在、地元町 会で管理されている。なお、波除地蔵尊⑯は長州下 関の石工万石屋定五郎の作品である。

燈籠・狛犬は大野湊神社には銭屋五兵衛③、大坂の回船 問屋吹田屋④、北前船の船主ら⑥が奉納した燈籠がある。 秋葉神社、金刀比羅神社には銭屋五兵衛の長男喜太郎⑩・ ②が奉納した燈籠がある。大野湊神社白山社の狛犬⑤は元 和期のもので、越前狛犬である。また、専長寺の庭園の手 水鉢②・燈籠③は加賀八家横山家旧邸にあった。

→ 材は、凝灰岩(笏谷石を含む)が18点と最も多く、次 ✓━ いで花崗岩と安山岩が各13点となる。城下町とは異 なり花崗岩の占める割合は高く、金沢湊町全体では約30点 を数える。城下町では卯辰山麓地区で1例、中心市街地金沢 城西側で4例、寺町地区で3例を数えるのみである。なお、野 田山前田家墓所の歴代藩主墓には花崗岩製燈籠がある。石材

は瀬戸内各所や越前から北前船で運び込まれたと考えられる。 このように金沢湊町には北前船に関わる地元船主や瀬戸 内の商人・石工達の関わる石造物が数多く見られ、城下町

とは異なる石が語る歴史があった。 * 文中の番号は石造物番号に一致

所在:日吉神社



文化15年(1818)、丸屋伝右衛 文政5年、丸屋伝右衛門と同 門と伝四郎が寄進したもの。 伊右衛門が奉納した一対の 彼等は北前船を率いて日本 狛犬。 傳泉寺境内にも彼らに 海を渡った大野湊を代表す よる寄進の手洗鉢がある。こ る大船主たちで、文化期 れらは北前船によって瀬戸 (1804~18)以降大野村の船主 内地方から運ばれたもので、 や廻船業者、船問屋などの地当時の丸屋家の財力を示す。

所在:金沢市五 郎島 種類:石碑 建立年:明治35

種類:石碑

拝殿正面左側にある。主計町

の真言宗源法院運勝師の発

起により、筆道金城講中60名

(811)弘法大師創立という臨

三津屋は累代次助と称す。 三

代次助は新開惣代として嘉永

種類:墓塔

建立年:嘉永6

(方柱型)

(笏谷石)

7年(1854)までに19町歩余の は諸説あるが直江屋伊兵衛が

耕地を開いた。しかし混迷する 元和年間(1615~24)三代藩主

藩政に心労が重なり嘉永3年 利常の命により紀州(現和歌山

(1850)62才で没す。同6年、 県)湯浅で醸造法を学び醤油

農業者四十余人総意により 造りを始めたと言われる。直江

次助の功労を讃え碑を建立。 屋は代々伊兵衛を名乗る。

並年:嘉永2

材:凝灰岩

(1849)

(笏谷石)

とその師匠等が嘉永2年に 供米三十俵、布十疋を寄進し

建立。運勝師は弘仁2年 たと伝える。泰家は富樫氏6

川山源法院の中興で書道の 経を安宅関の関守として歌

名人であった。昭和55年修復。 舞伎、勧進帳で有名である。

(1902)石材:凝灰岩 (笏谷石) 高さ:100cm

所在:水月院 種類:墓塔 (方柱型) 建立年:正徳5 (1715)石材:安山岩

所在:日吉神社・

建立年:伝 鎌倉

石材:凝灰岩

まさ:17cm

所在:大野共同

種類:墓塔

墓地

並年:天保年間

材:花崗岩

5さ:264cm

(方柱型)

~43)

拝殿内に保管されている。鎌

倉時代守護富樫泰家が霊夢

に感じ社堂を再建し、毎年ご

代当主。奥州へ逃亡する源義

大野を代表する産業として醤

油製造業がある。その始まりに

賃江屋の墓

(笏谷石)

種類:石像

拝殿

小濱神社は延喜式内社にし 六十六部の墓。六十六部とは て加賀郷総鎮守といわれ国 大乗妙典法華経を書写し 家鎮護の格式高い神社。養老 六十六ヶ所の霊場へ一部ず 2年(718)、現内灘町黒津船 つ納めながら諸国を行脚し 地内の権現森に遷座、天保3 た僧。行脚の途中、大嵐で働 年(1832)、当地に移転。さら き手を失った村人を慰め、励ま に明治22年(1889)、現在地の し、お世話をして当地で亡くなっ

所在:水月院 種類:石碑

四郎は町年寄となる。

大野船団の中核をなしていた

のは丸屋伝右衛門を総本家と

建立年:天保15 (1844) **石材:凝灰岩** (笏谷石) 高さ:83cm

所在:日吉神社

站:文化7

石材:花崗岩

高さ:200cm

重類:墓塔

位年:天保9

5材:花崗岩

高さ:239.5cm

(方柱型)

(1838)

神社拝殿の北側、参道途中に

ある燈籠。奉納は浅黄屋が行

う。石工は尾道の嘉十郎が作

刻む。

(1810)

成した。石材は北前船で瀬戸成した。石材は北前船で瀬戸

内地方から運んだものであ 内地方から運んだものであ

ろう。「奉納 稲荷大明神 ろう。「奉納 金比羅大権現

海運長久 家内安全」の銘を 海運長久 海上安全」の銘を

する丸屋船団と川端屋嘉左衛 海を渡った大野湊の大船主

門を船主とする川端屋船団、こで、銭屋五兵衛没落後も繁栄

れに小粒ながら浅黄屋船団のし大野、宮腰、粟崎において

していた。元治元年(1864)伝 あった。また、子孫は安政7

三船団が大野の海商を形成 木谷、島崎とならぶ海商で

種類:燈籠

所在:日吉神社

建立年:文化7

石材:花崗岩

位年:文化9

所在:粟崎八幡

建立年:安政5

石材:花崗岩

高さ:445cm

参拝:可

(1858)

·: 墓石 花崗岩

台座 凝灰

神社拝殿の北側、参道途中に

ある燈籠。奉納は浅黄屋が行

う。石工は尾道の嘉十郎が作

丸屋伝右衛門や同伝四郎は

大野の北前船を率いて日本

年(1860)地方肝煎を務めた。

神社種類:明神鳥居

(1810)

種類:燈籠

所在:日吉神社 種類:明神鳥居 建立年:天保14 (1843)5材:花崗岩 5さ:370cm

石工も尾道の嘉十郎である。 用されている。 石材も同様に北前船で瀬戸 内地方から運んだものであ ろう。

皆狭屋藤右衛門家の墓『

政期 (1830 :花崗岩

安政3年(1856)大野醤油の粗 製乱造を防止するため大野町に 醤油肝煎と醤油吟味人を置い

> 所在:粟崎八幡 神社 種類:玉垣 建立年:安政5 (1858) 石材:花崗岩

高さ:98cm



神社拝殿の北側、参道入り口 神社拝殿の北側、参道入り口 にある鳥居。奉納は拝殿正面 右手にある手水鉢。奉納は若 参道入り口にある鳥居と同 連中が行う。この神社では珍 様に尾道の富吉屋が行い、 しく赤戸室が用材として使

粟崎共同墓地

浅黄屋(浅井家)の墓 🤅



たが、翌安政4年醤油仲間59 味人を置いた。肝煎に浅黄屋 人が宮腰町奉行へ株仲間として 重左衛門を吟味人に油屋伊 保護するよう願い出た。その中 兵衛、浅黄屋津右衛門を任ず に若狭屋の名前がある。文久年 る。墓石に浅黄屋重左衛門の 間(1861~63)地方肝煎となる。 他5名を刻む。

所在:大野共同

₹ 種類:墓塔

(笏谷石)



粟崎八幡神社は加賀藩主前 天明8年(1788) 粟崎村の秋 田家より崇敬厚く、修理や祭 祭りに加賀藩士と村民の喧 神社。 粟崎村内の北前船の船 多数の死者が出た。 善七とい 頭衆が海上安全祈願のため、う若者が身代わりとなり斬 天保13年に奉納。



B8



人達はその霊を弔い、慶応元

年に地蔵尊を建立。

罪の上、さらし首となる。村



◆墓所は故人が永遠の眠りについている場所です。静かに参拝しましょう

大野 エリア

野醤油醸造協業組合

大野共同墓地

金石大野やすらぎの林

(1865) 石材:凝灰岩 (笏谷石) 高さ:73cm

E3

種類:墓塔(方 柱型) 建立年:嘉永6 石材:安山岩 **副高さ:155cm**

G4

木谷藤右衛門家の墓 ^② _{B11} _{所在: 栗崎共同}

藩政期における加賀藩最大の 海商木谷藤右衛門家は屋号を 木屋とし、二代目を除き代々藤 右衛門と称す。安永6年(1777) の由緒によれば、先祖は西国の 武士。兵乱をさけて粟崎村に移 り、最初肝煎役、後に藩の薪御 用・作事方材木御用を務めた。



G3 G3 H4 14

国土交通省金沢港湾·空港整備事務所

名聲寺 👚 🕪 🔩

1丁目 大野ごまちなみ公園

石川県漁業協同組合かなざわ総合市場

造物を紹介するが、墓塔類が最も多く、次いで鳥居、 燈籠、狛犬と神社関係の石造物がある。





本殿左側にある。



を始めたと言われる。



大野町を代表する醤油商の 神社拝殿に続く参道入り口 直江屋と若狭屋が寄進した にある鳥居。奉納は尾道の商 燈籠一対。大野醤油の始まり 人富吉屋、他に大野を代表す は、直江屋伊兵衛が元和年間 る丸屋など18人の名を刻む。 (1615~24)三代藩主利常の命 石工は尾道の嘉十郎作と刻 により紀州(現和歌山県)湯 まれており、石材は北前船に 浅で醸造法を学び醤油造り よって瀬戸内地方から運ば



れたものと考えられる。 位は急速に確立していった。

高さ:382cm 参拝:可

(1844)

(赤戸室) 高さ:123.5cm

内灘町大根布へ再移転した。た。墓は寺院門前にある。

変えて(観音霊場数33ヶ所) あろう。 人々を導く(後略)」と説く。

西国三十三所観世音を巡礼 神社拝殿に続く参道口にあ

した若講中11名が天保15年 る鳥居。奉納は木谷次助(木 に建立した記念碑。『法華経 谷藤右衛門一門の分家)。 兵 普門品』によると「観音は偉 庫津(現在の神戸港)の石工 大な方便力をもち、時や処や 長八の作。瀬戸内地方から石 相手に応じて三十三に姿を 材を北前船で運んだもので

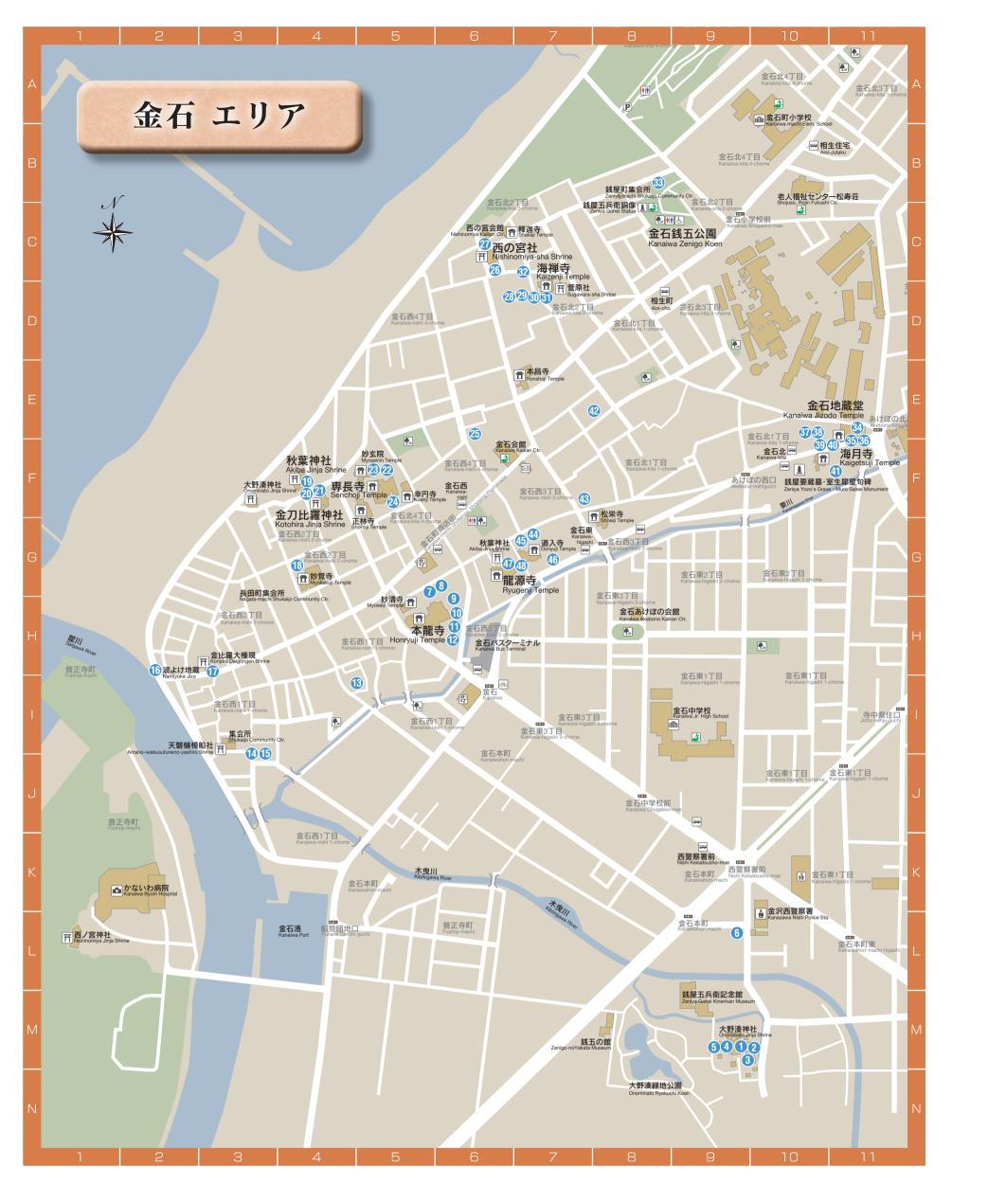
刻む。

参拝:可 玉垣は安政5年に奉納。右に 寛永16年(1639)村民が奉納し

(1639) 台座安政4 (1857) 石材:狱 知場(詩 室)、台座 花崗岩 高さ:198cm

10代木谷藤右衛門、左に木 たもので、台石は風化が甚だ 谷治助がその船名と船頭衆 しく安政4年に再建。台石の の名を刻む。また、最上段左 石材は備前(現在の岡山県瀬 右の玉垣に大野の丸屋と向 戸内)より木屋の持船国栄丸 粟崎の嶋崎両家の船頭名も が運び、遠田屋若連中が寄 進。向かって左の狛犬は胸元

に子犬を抱える子持狛犬。



48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | No

E11 | B8 | C7 | D7 | D7 | D6 | C6 | E6 |

❖墓所は故人が永遠の眠りについている場所です。静かに参拝しましょう。



重類:燈籠

並年:文久2

石材:花崗岩

高さ:300cm

種類:墓塔

その後子を失う。文化5年又右

衛門は宮腰に帰り、哀惜哀憐の

情を記した墓を建立。碑文は金

所在: 秋葉神社

■ 種類:狛犬

並年:天保15

石材:花崗岩

高さ:160cm

建立年: 寛政7

石材:安山岩

高さ:141cm

(1795)

(青戸室)

(1844)

(位牌型)

(1808)

(笏谷石)

建立年:文化5

石材:凝灰岩

種類:狛犬

建立年:不明

拝殿正面に立つ一対の狛犬。

長い年月の間に風化が進行

種類:墓塔

(円柱型)

(1810)

建立年:文化7

石材:砂岩

■高さ:169cm

所在:金刀比羅

種類:燈籠

建立年:天保14

石材:花崗岩

高さ:210cm

建立年:元治元

■ 石材:凝灰岩

高さ:163cm

参拝:可(道路

人形浄瑠璃、竹本座の流れを 墓石の上部が義太夫節の演

くむ義太夫節の語り手太夫 台形をしており、その上に丸

の碑。自然石中央の花頭枠に 本が置かれていることから、

「竹本米太夫 米長」、その下 この墓石は義太夫節の太夫

部に世話人7名(判読不可) のものと推定される。墓石の

を陰刻。海禅寺庫裏の下に、 左面に「弥三郎」とある。藩政

舞台の部材が保管されてい時代の宮腰は歌舞伎、浄瑠璃

(1864)

神社拝殿前に建つ燈籠。銭屋

こんだものである。

(1843)

のと考えられる。

ている。

石材:安山岩(赤

高さ:阿像 70cm

戸室)

件像 60cm

したため頭部・体部の表現 「献灯 願主 清水五兵衛

が分からなくなっている。制 男喜太郎建」と刻む。清水五

作年代は不明であるが、配置 兵衛は銭屋五兵衛の本名で

から推定して藩政時代のも 喜太郎は長男、藩政時代を代

宮腰で塩蔵、米蔵、材木蔵の 本龍寺は砺波郡梅原村で開

支配を業としていた蔵屋第 創し、開基・蓮欽の室は蓮如

5代定助の墓。「寶泉」は俳 上人の娘了如禅尼、第3世賢

号。文化7年79歳で没した。 春の室もまた蓮如上人の孫

墓石は上部に狛犬を載せた 娘英俊であった。英俊は蓮如

珍しい形をしている。代々 上人の分骨を持参し、寺内に

「犬狛の墓」と言い伝えられ 廟を設けた。慶長7年(1602)

五兵衛の長男喜太郎と船頭 縁先に置かれるものである。

が天保14年に奉納。石材は北 加賀藩家老横山家の屋敷を

前船で瀬戸内地方から運び 譲り受け、寛政9年(1797)本

-1周約5km、徒歩約2時間-沢町会所吏員楠肇の手による。 ※寺社名下の番号は石造物番号を示す

銭屋五兵衛の長男喜太郎と 銭屋五兵衛の長男喜太郎と 船頭が、天保15年に奉納し 船頭が、天保15年に隣接する た。喜太郎は嘉永5年(1852) 灯籠と同時期に、この狛犬を 河北潟疑獄事件で投獄され、 奉納。石材は北前船により瀬 身内の嘆願もあり、安政4年 戸内地方から搬入されたも (1857)出獄、慶応3年(1867) のである。 現在の南砺市にて56歳で死

種類:石碑 置建立年: 享和2 (赤戸室) 高さ:172cm 参拝:可(道路

天明~享和(1781~1803)の大 先が尖った荒削りの墓石の 相撲で、谷川・雷電と同時期 中央に「宮古川吉三郎墓」、そ に活躍した関取の石碑。天明 の右に「寛政七年十二月□ 目。享和2年(1802)に廃業。 行が盛んに行われた。

所在:海月寺

種類:石碑

建立年:天保4

石材:安山岩

高さ:154cm

橋上流にて興行している。

(1833)

(赤戸室)

7年(1787)~享和2年の星 □」と刻む。 地元出身の力士 取表によると最高位は寛政 か。金石は藩政時代、北前船 4年(1792) 春場所の東2段 の寄港地として栄え、相撲興

種類:墓塔

所在:海月寺 (方柱型) 建立年:昭和26 (1951) 石材:花崗岩 高さ:170cm 参拝:可

地元出身の相撲力士、谷川菊 北前船で活躍した、海商銭屋 右衛門の石碑。成績、由緒な 五兵衛三男要蔵の墓。河北潟 どは不明。建立年の天保4年 の新田開発疑獄事件の首謀 秋、能登鳳至郡七海村出身横 者として、嘉永6年(1853)宮 綱阿武松緑之助が浅野川大 腰の松原において磔刑にな る。墓は近くで発見され、銭 屋五兵衛100回忌に当寺に移 設した。 見ることができる。

所在:海月寺 種類:墓塔 (一石位 牌形) 建立年:不明 石材:凝灰岩

たという。

(笏谷石) 高さ:67cm

藩政時代、金石は土葬であっ 観音像の右に「奉納大乗妙典 たが、埋葬用地の不足と疫病 六十六部(後略)」と刻む。六十六 予防の観点から江戸後期頃 部とは、法華経を66部書写し、 から火葬に変更。灰塚は火葬全国六十六ヶ所を巡礼し、一巻 後の残灰を集めて葬った石 ずつを奉納すること。鎌倉時代 塔。他に1基の灰塚があり、に始まり、江戸時代に盛んとなる。 金石の他の寺院でも灰塚を石仏は近くの桑畑で野ざらしだっ たが、此処に移したと伝わる。

音堂 1-5-16 種類:石仏 ■ 建立年:明和4

が盛んであった。

所在:御船町観 (1767) 石材:凝灰岩

古酒屋市兵衛の娘が若くし と名乗る。後に江戸相撲に所 て亡くなり、その姿を偲んで 属 し、 初 土 俵 は 嘉 永 3 年 地蔵尊を作り供養した。昔、 (1850)で湊川の門人として 火葬場へ行く葬列は、橋を境 「立田野吉蔵」と名乗る。文久 に見送りの人が別れたので、 3年(1863)「湊川四郎兵衛」を 「お辞儀橋地蔵尊」と呼んだ。 襲名。 最高位は前頭 5 枚目で

建立年:宝暦 10 (1760) 石材:花崗岩 高さ:205cm

(旧達磨町)

(赤戸室)

石材:安山岩

高さ:120㎝

人を務めた。

所在:大野湊神

種類:燈籠

所在:大野湊神社

種類: 狛犬

建立年: 元和8(1622)

(笏谷石)

件像 48cm

だものであろう。

の光覚寺住職が執行。

半分の六体になった。

石材: 凝灰岩

種類:石仏

建立年:安政2

(1855)

5材:凝灰岩?

高さ:130cm

(笏谷石)

木曽義仲の頃からと伝わる。 この地蔵尊は長州下関(現山

この地蔵尊は久昌庵の墓地 口県下関市)の「石工万石屋

にあったが、昭和45年(1970) 定五郎」の作である。海上安

御堂を建てた際、現在地に安 全と大漁を願う地元の漁師

置。左手に宝珠、数珠を掛け たちの拠り所である。百年祭

ている。地蔵祭りは8月20 が昭和41年(1966)盛大に行

日、無住の為金沢市山の上町 われた。地蔵祭は8月28日、

手に宝珠を持つ子安地蔵尊。 西の宮社は大野湊神社の境

その由来は、昔、海で遭難し 外末社の一つとして地域の

た12人の漁師達の菩提を弔 方に親しまれている。この手

う為に12体の地蔵尊を作っ 水鉢は拝殿右側にあり、前面

たと伝わる。明治29年(1896) に「元治元年□奉納」と陰刻。

御塩蔵前の通称「馬屋の火事」 下部の幅は74cm、上部は83cm

といわれる大火によって焼失しを測り、上方に広がる形態で

祠堂内には、小さな地蔵尊が 延命地蔵を信心する人で、二

約360体安置されている中 足、三足歩いてもふらつく病

で、本地蔵像は奉納者(敦賀 人が、祠堂内の「浮彫り三体

屋ます)、奉納年月日が明確 地蔵尊」を膝のうえに載せ、

な1体である。願掛けのお礼 片手でおろすと、以後歩ける

や祈願のため奉納されたも ようになった、という伝承が

地蔵堂

金石北

1-18-36

のと思われるものが数多くある。

(1860)

(赤戸室)

の住人、岸原親逸が建立。 4代目が道入寺に墓を建立。

ある。

29日。

高さ:阿像 49cm、

建立年:不明

石材:安山岩

高さ:174cm

建立年:明治5

石材:安山岩

高さ:137cm

(1872)

金石北

1-18-36

建立年:不詳

5材:凝灰岩

所在:道入寺

種類:石碑

建立年:大正2

石材:凝灰岩?

見学:可

石材: 凝灰岩: 高さ: 299cm

(1913)

自然石正面中央の花頭枠に

「南無阿弥陀佛」、その右に

「諸人供養水」と刻む。昔、木

茶店(番匠屋)で休んだという。

萩」「神霊矢口渡」を演じた。

(赤戸室)

白山社に至る参道の途中に 狛犬は中山家3代当主中山

左右一対に建つ燈籠。奉納者 主計が、当主を相続した折に は大坂の廻船問屋吹田屋で、寄進。中山家は初代主計が、 石工は大坂の本庄屋が制作 前田利家を金沢城へ先導し した。 石材も彼の地から北前 た恩賞として、利家の帷子・ 船で運んだものであろう。 画像と扶持20石を下付され て以来、宮腰にて代々家柄町

所在:本龍寺 種類:墓塔 建立年:明治期 🚄 石材:不明 高さ:302cm

当寺は宮腰に移転した。

この手水鉢は観賞用として

堂を建立。庭は横山家所有当

時のもので、この手水鉢も現

地にあったと思われる。

所在:専長寺

種類:手水鉢

₹ 建立年:江戸期

(小豆島

(本体)

■ 石材:花崗岩

種類:燈籠

建立年:弘化元

石材:花崗岩

高さ:380cm

拝殿正面に左右一対に建つ、

丸竿六角形の石灯籠。銘文に

表する廻船業者、晩年は河北

潟埋め立て事件で獄中で死す。

向かって右側の地蔵尊は左 手に蓮華、左側の地蔵尊は右 手に錫杖、左手に宝塔を持 つ。建立者は桜屋の先祖・桜 曽街道の続きが松任(現白山 井屋喜助(宿屋)。眼病に霊験 市)より海岸筋を通って宮腰 あらたかと伝わる。毎年3月 へ入り久昌庵が終点であっ の涅槃会には「涅槃団子」を た。当庵の湧水を飲み、隣の 配る行事が行われる。

所在: 專長寺 種類:月見燈籠 建立年:江戸期 石材:花崗岩 **ぶ**高さ:200cm 見学:要許可

加賀藩家老横山家の屋敷を 幕末から明治にかけて活躍 譲り受け、仮本堂とし、寛政 した宮腰(金石)の歌舞伎役 9年(1797)隣地に本堂を建 者。明治2年4~9月にかけ 立。庭は横山家所有当時のも て相生町の「金石座」後に「戌 ので、この月見灯籠も現地に 座」で座元とし、「伽羅先代 あったと思われる。

所在:銭五公園 種類:石碑 建立年:明治7 (1874)石材:安山岩 (赤戸室)

前田家14代慶寧公は、明治7 年熱海で没す。諡は「恭敏 病封じに地蔵尊を彫り、後に 公」、神式にて東京日暮里に難波安治川辺に安置した。寛 葬られる。法名「松喬院殿慶 文(1661~72)の頃、船頭吉助 雲良秀大居士」と刻む。在世 の夢のお告げにより、地蔵尊 中温情をかけられた船手足 像を船で運び宮腰に安置、元 軽は、公を敬慕して碑を建立 禄7年(1694)道入寺智誓法 した。

f在:鉄砲町地 蔵堂 金石北 1-2-1 種類:石仏 建立年:安政7 (1860) 石材:凝灰岩? 高さ:100cm

縁起によると、宮腰の住人、 はじめ京都相撲で「立田山」

あった。石碑は追善供養。

印が現在地に安置した。

目撲力士湊川の碑 🖁



ある。

寺院本堂前の左側に建つ塔。 宮腰の肝煎や町年寄り等を 金石エリアでは珍しい赤戸歴任。木下家は北政所の叔父 室で製作。狐の霊を神として にあたり2代目まで木下姓を名 崇め鎮護するために建てら 乗る。後に「酒屋株」を取得し れた。天正期から藩政時代に 本町で醸酒と酒屋を開き「酒屋 かけて狐と人との関わりを 八右衛門」と改名。14代から再 物語る貴重な石造物。城下町 び木下姓を名乗る。供養の為

所在:大野湊神 5材:花崗岩 高さ:303cm

神社に通ずる参道の途中に 宮腰湊の北前船主。39歳の時 建つ燈籠。銘文に「献灯 海 質流れ120石船で始めた廻船 上安全」と刻む。金石の船主 業が、嘉永4年(1851)には持 達が奉納したもの。石材は瀬 船15艘を要し最盛期を迎え 戸内地方から北前船で運ん た。しかし、同年始めた河北 潟埋立工事に端を発した疑 獄事件で、翌年投獄、財産は 没収され、80歳で獄死。

立年:元治元

石材:安山岩

高さ:44cm

(1864)

(赤戸室)

金石北

建立年:不詳

高さ:36cm

所在:道入寺

建立年:享保年間

石材:凝灰岩

高さ:114cm

(1716~

(笏谷石)

種類:墓塔

石材:凝灰岩?



祠に安置された2体の地蔵 当寺第10世住職は仏教学並 尊はいずれも坐像である。地 びに真宗学を深く研鑽され 蔵祭り以外の日に開くと「目 た。一切経(黄檗宗)は境内の に障りが生じる」との言い伝 経蔵に蔵す。没後、東本願寺 えがある。縁起によると越前 より乗相院釈法賢嗣講の学 三国(現福井県三国町)の一 位称号を賜る。墓石は本堂前 体上人の作といわれる。地蔵 に建つ。 祭りは8月24日、25日。

所在:本龍寺 種類:石碑

建立年: 文政3

石材:凝灰岩

高さ:159cm

と考えられる。それぞれ文政 没した。

江戸中期、江戸や大坂で興行

相撲が興った。その地方興行

3年、天保3年(1832)と刻む。

(1820)

で相撲熱が拡がり、龍田川安 北前船主。安政5年には、湊

兵衛は隣りの石碑茂山弥吉 屋佐太郎・輪島屋与三兵衛

と共に安永・天明期(1781~ と共に複数の渡海船を所有

88)に活躍した地元相撲力士 し活躍した。明治7年(1874)



神社拝殿正面に建つ燈籠。銘 藩政期の宮腰で盛んであっ 文に「献灯」と刻む。金石の押 た義太夫節の太夫の石碑、左 野屋など13名が奉納したも 面に辞世の句を刻む。風化に の。石材は瀬戸内地方から北 より判読不明の文字もある 前船で運んだものであろう。 が、「老いぬれば 雀も踊り

にしの彼の國」と刻む。

打ち捨てて ねぐらを慕う

所在:六地蔵堂

(1849) ~慶応元

(1865)



石材:凝灰岩 (笏谷石)

六地蔵尊は、嘉永2年~慶応 元年間に建立されたもの。以 阿弥陀如来立像は来迎印を 前、納骨堂があった地で、人結ぶ。枠外左右に「光明遍照 の死後に行く六道から救済 十方世界/念佛衆生摂取不拾」 れる。



宮腰の浄瑠璃芸人。名前は荘 この墓は、加賀藩八家本多家 吉、人は勝太夫と呼ぶ。この の医師(40石)と伝わる。明治 碑は門人などが建立。芸風 18年(1885)73歳で没す。この は、「歌う」要素を極端に排し 寺が一時廃寺であった折に て「語り」における叙事性と 野田山墓地に移設した。その 重厚さを極限まで追求した。 時に代替墓としてこの自然 石を設置したものと推測さ れる。



種類:自然石 建立年:不詳 石材:安山岩? ■ 高さ:67cm 見学:可

の所在地は不明。

する六地蔵として祀られて と刻む。頭部の群青、体部台 いる。蓮華座は後補と考えら体に彩色の痕跡がある。本来